77

『体雅』諸本10種の関係について

浦山　きか
北里大学東洋医学総合研究所医史学研究部

『体雅』は，丹波元胤（1789～1827）の撰した人体部位名称の辞書であり，医書・経書や辞書等を引用し考証を加えている．以下に記す何れの抄本にも「東都　丹波元胤招翁　纂釈」とある．

「日本古典籍総合目録」に拠れば，国会図書館・京都大学附属図書館（京大本と略）・京都大学附属図書館富士川文庫（富士川本と略）・早稲田大学附属図書館（早大本と略）・東京大学附属図書館（東大本と略）・東京大学附属図書館鶚軒文庫（鶚軒文庫本と略）・東北大学附属図書館狩野文庫（東北大本と略）・大阪大学附属図書館（阪大本と略）・前田尊経閣文庫（尊経閣本と略）・無窮会平沼文庫（無窮会本と略）の10箇所に10種の所蔵が認められている．北里大学東洋医学総合研究所医史学研究部には修琴堂文庫所蔵抄本があることから，10種以外の抄本も存在すると考えられる．

10種の諸抄本は，①本文の項目数 ②本文に対する修正（補足的書き入れ・削除）③纂釈の経緯の，3種の記述の有無とその方法とにより，4種に分類できる．すなわち，a）②③の書き入れが無いもの（京大本），b）②③の書き入れの有るもの（尊経閣本・国会図書館本・富士川本），c）②の書き入れが有り，上記b）における修正を反映して書写されたもの（東大本・阪大本・早大本），d）上記a）b）c）以外の改変があるもの（無窮会本・鶚軒文庫本・東北大本）である．収録する項目数は，a）と国会図書館本と尊経閣本が最も多く240項目を挙げ，富士川本は1項目少なく，東大本は2項目少ない．

b）の諸本に拠り本書纂釈の経緯が知られる．尊経閣本の巻一巻末には「文化十一年甲戌孟春起稿至于明年菖／月使及門木由賢謄次是月廿八日／再訂　胤記」「文政壬午夏五月初九日再重訂　胤又記」と朱書され，続けて「文政戊子季春抄写校正畢　柳原平善」と青書されている．同巻三巻末には朱書で「乙亥菊節覆訂　胤／壬午五月十日刪改　胤又記」，青書で「戊子季夏校正訖　善」と記されている（／は改行を示し一字あけは空欄を示す．以下同）．1814年初から翌年5月にかけて本文が墨書され，1815年と1822年に元胤によって本文の抹消と補足が朱書され，1828年に柳原平善によって校点と引用書の指摘が青書されたことになる．

以上の経緯を他に国会図書館本と富士川本が記載しているが，独り富士川本の巻二巻末には「都梁先師有説可考」の書き入れがある．国会図書館本の巻一表紙見返しに「浸庭先生曰赤青黒之三等皆如原本只／赭之一色新補也」と記し，三色の使用は原本に基づいたとする．巻三巻末には「右體雅一書浸庭森先生侑而来慶應二龍集柔兆摂／提格黄梅時節家々雨中念一日写了／龜州陳人拝記」「龍飛丙寅稔暮秋玄月希望十四夜雨中／新雁為群鳴實推故情於横渠起／居万巻書屋中一校讀了／素行伊沢信實」と識語を記す．

京大本には朱書による校訂が反映されていないことから，1815年の「菖月」から「菊節」の間に書写された抄本と考えられる．

元胤の校訂を反映して清書されたと考えられるc）の三書には，欄外に『類篇』『集韻』等の辞書からの書き入れがある．柳原平善の校正は反映していない．鶚軒文庫本には乱丁があり，その丁数から推測すれば10種の中では阪大本に拠ったと思われる．

d）に挙げた二書は，c）から書写された，さらに派生的な抄本と考えられ，無窮会本は『釈骨』を附して一書とする．「日本古典籍総合目録」における「補遺」とはこの『釈骨』部を指す．東北大本はc）の部分的な抄本であり，前述の北里医史研所蔵本も同様である．これらの抄本からは辞書として清書された『体雅』と，後の使用法の変遷とを窺うことができる．

以上のことから，旧態を留めたものとして尊経閣本と富士川本を考慮し，対校に国会図書館本を用いるべきであると考えられる．さらに細かな書き入れを考慮することで，江戸医学館の研究方法の実際をも知り得る，貴重な資料となろう．